

第4期多摩区区民会議 第8回自然災害部会

日時：平成25年9月19日（木）18:00～

会場：多摩区役所10階1002会議室

次 第

1 区民会議フォーラムについて

2 審議テーマに関する取組内容について ～具体的な取組、実施主体の検討～

3 その他

審議テーマ検討の観点

①方向合致度

→多摩区の目指すべき姿に向かったものか（ひと・水・緑-住み続けたいまち 多摩区（都市マス多摩区構想））。

②市民協働性・実現性

→市民協働の手法で解決できるものか。

③公益性

→広く区民の利益をもたらすものか。

④区民ニーズ・必要性

→区や区民の関心が高いものか、必要とされているものか。

⑤緊急性

→第4期で取り組むべきものか、早急な取り組みが必要か、時宜を得たものか。

第4期 多摩区区民会議委員名簿

平成24年11月6日現在

任期:平成24年7月1日～平成26年6月30日

(敬称略・50音順)

NO	氏名	部会	推薦団体 及び 活動団体
1	安倍 修司	自然災害部会	多摩区商店街連合会
2	荒井 精一	☆自然災害部会 企画部会	市民公募
3	○石橋 吉章	自然災害部会 企画部会	区長推薦
4	岩崎 宏政	自然災害部会	多摩区・3大学連携協議会
5	◎大津 努	コミュニティ部会 企画部会	多摩区社会福祉協議会
6	清宮 明	自然災害部会	多摩防犯協会
7	国保 久光	コミュニティ部会	川崎市医師会多摩区医師会
8	小塚 千津子	コミュニティ部会	多摩区こども総合支援連携会議
9	白井 正壽	コミュニティ部会	セレサ川崎農業協同組合
10	辻野 勝行	☆コミュニティ部会 企画部会	市民公募
11	○戸高 仁子	コミュニティ部会 企画部会	かわさきかえるプロジェクト
12	西山 英子	コミュニティ部会	多摩区文化協会
13	新田 渉世	自然災害部会	区長推薦
14	配島 裕美	コミュニティ部会	多摩区地域教育会議
15	原田 弘	自然災害部会	多摩交通安全協会
16	藤原 司	自然災害部会	区長推薦
17	細埜 隆己	★自然災害部会 企画部会	登戸土地区画整理事業まちづくり推進協議会
18	本多 正典	コミュニティ部会	市民公募
19	松本 英嗣	★コミュニティ部会 企画部会	多摩区町会連合会
20	吉田 輝久	自然災害部会	多摩区自主防災組織連絡協議会

◎委員長 ○副委員長 ☆部会長 ★副部会長

【参与】

市議会議員

井口 真美 河野 ゆかり 斉藤 隆司 菅原 進 露木 明美
橋本 勝 廣田 健一 三宅 隆介 吉沢 章子

県議会議員

青山 圭一 土井 りゅうすけ

第4期多摩区区民会議 開催スケジュール

		平成 24 年度									平成 25 年度														
		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
区民会議 (全体会議)	区民会議 ニュース	★ 第1号発行									★ 第2号発行						★ 第3号発行			★ 第4号発行					
	ミーティング ・ フォーラム	第1回 ● 8/24 ● 8/24 ● 8/24 地域課題について 区民会議の説明			第2回 ● 9/25 ● 9/25 ● 9/25 審議テーマの ア出し			第3回 ● 10/23 ● 10/23 ● 10/23 審議テーマ案の 部会案の決定												区民会議フォーラム ■ 11/23 (土・祝)					
	全体会議	第1回 ■ 8/30 ● 8/30 ● 8/30 審議テーマの 確認 運営方法の 検討			第2回 ■ 11/6 ● 11/6 ● 11/6 審議テーマの 設置			第3回 ■ 2/12 ● 2/12 ● 2/12 現状と課題の 全体審議			第4回 ■ 5/28 ● 5/28 ● 5/28 解決策・取組内容 実施主体の 検討			第5回 ■ 9/4 ● 9/4 ● 9/4 解決策・取組内容 実施主体の 検討 フォーラムの 検討			第6回 ■ 11/12 ● 11/12 ● 11/12 フォーラム前 の内容確認			第7回 ■ ● ● 最終報告書の 確認			区長へ結果報告 (最終報告書)		
企画部会 (調整・運営部会)											事前調整 ● 2/4			事前調整 ● 5/22			事前調整 ● 8/30			11/7 フォーラム準備、 全体会の事前調整			事前調整 ●		
専門部会	コミュニティ部会	審議テーマに関する現状・課題 の把握(※)									● 11/6 ● 12/5 ● 1/28 ● 3/11			● 5/15 ● 6/28 ● 7/26 ● 8/19 ● 9/24 ● 10/29			最終報告に向けての まとめ								
	自然災害部会	審議テーマに関する現状・課題 の把握(※)									● 11/6 ● 12/3 ● 1/25 ● 3/5			● 5/13 ● 6/21 ● 7/29 ● 8/22 ● 9/19 ● 10/30			最終報告に向けての まとめ								

*適宜現地視察や、関係者ヒアリング、勉強会などを開催。

第4期多摩区区民会議フォーラムの開催について

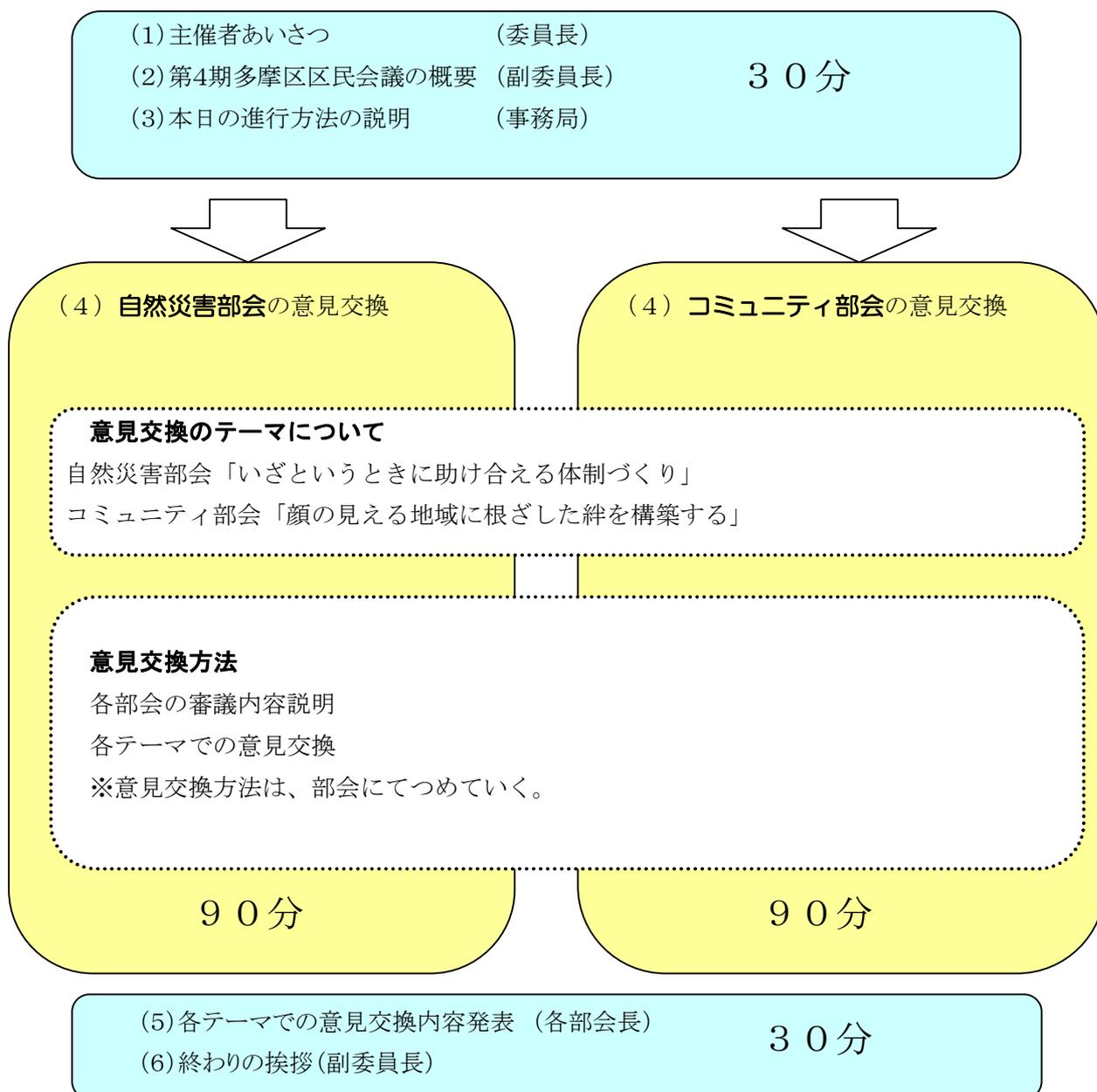
1 目的

第4期多摩区区民会議の審議内容について、区民の皆さんへ周知を図り、地域課題について共に考える機会とする。また、区民と意見交換を行うことにより、各審議テーマの提言案へ区民の意見を取り入れていく。

2 日時 平成25年11月23日(土) 13:30~16:00

3 会場 多摩区役所会議室

4 フォーラムの流れについて



5 役割について

部会（会場）ごとに座長、書記、発表者を区民会議委員から役割分担を行い進行する。

6 内容・タイムスケジュール

内 容	担 当	時間配分	時間割
(1)主催者あいさつ	委員長	5分	13:30 13:35
(2)第4期多摩区区民会議の概要	副委員長	10分	13:35 13:45
(3)本日の進行方法の説明 (区民会議全体構成の説明)	事務局	5分	13:45 13:50
※希望するテーマのテーブルへ移動			13:50 14:00
(4)テーマ別意見交換			
①自然災害部会	各部会員	各部会により、検討 (内容) 概要説明、意見交換	14:00 15:30
②コミュニティ部会			14:00 15:30
※元のテーブルへ移動する			15:30 15:40
(5)各テーマでの意見交換内容発表	各部会長	15分	15:40 15:55
(6)終わりのあいさつ	副委員長	5分	15:55 16:00
全体終了予定時刻 16:00			

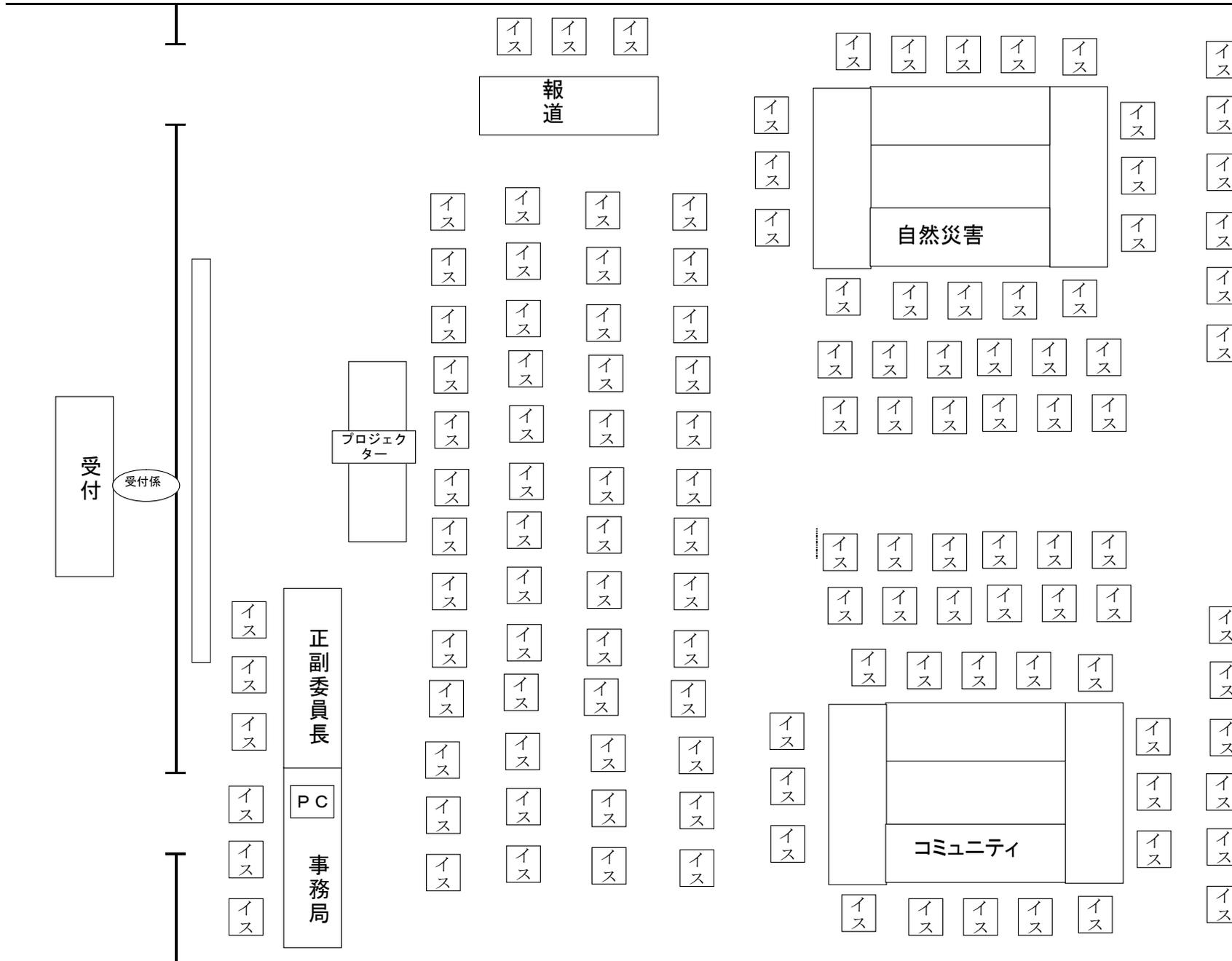
多摩区区民会議フォーラム・自然災害部会意見交換の進め方（案）

[テーマ]いざという時に助け合える体制づくり

ジャンル	時刻	報告・意見交換	備考（報告者など）
全体会	13：30	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者あいさつ ・第4期多摩区区民会議の概要 ・本日の進行方法の説明 	
経過説明	14：00	部会の検討経過（5分）	
多摩区版「備える。かわさき」の作成	14：05	多摩区版「備える。かわさき」3つの提案（10分） <ul style="list-style-type: none"> ○なぜ、多摩区版「備える。かわさき」か（5分） ○マグネット方式、掲示板方式、回覧板方式の提案（5分） 	
	14：15	意見交換（15分）	
災害時に安全に逃げる仕掛けづくり	14：30	一時避難場所の設置と防災マップ作成提案（10分） <ul style="list-style-type: none"> ○一時避難場所の設置状況と設置意向－アンケート結果及びマップを踏まえて（5分） ○一時避難場所の設置と身近な防災マップの作成に関する提案（5分） 	
	14：40	意見交換（15分）	
災害時における学生との連携	14：55	学生との連携のあり方に関する提案（15分） <ul style="list-style-type: none"> ○学生との連携のあり方に関する意向－アンケート結果を踏まえて（5分） ○災害時における学生との連携のあり方に関する提案（5分） ○HUGの解説（5分） 	
	15：10	意見交換（15分）	
部会まとめ	15：25	本日の意見交換内容の確認（5分）	
	15：30	部会終了・移動	
全体会	15：40	<ul style="list-style-type: none"> ・各部会の意見交換内容の発表 ・閉会あいさつ 	

多摩区区民会議フォーラム

601会議室



多摩区区民会議 第8回自然災害部会（9月19日開催）メモ

■区民会議フォーラム(11月23日)の自然災害部会意見交換の進め方

→別紙案参照

【取組1】「備える。かわさき」多摩区版の作成

■提案内容

- ・「備える。かわさき」多摩区版として、①マグネット方式、②町内会掲示板・広報掲示板方式、③回覧板方式の3つを提言する。

■配布資料

①マグネット方式

- ・実物大（8cm×12cm）カラーイメージ案と活用方法を記載した資料を作成・配布。
- ・記載すべき内容
 - 例 作成の目的・使用方法
 - 配布方法と配布先：ポスティングによる全戸配布
 - 記載例



②町内会掲示板・広報掲示板方式

- ・実物大（横長版・A3版の2種）の「この地域の避難所は〇〇です」と記載した掲示物を作成し、展示する。

③回覧板方式

- ・回覧板に記載すべき内容案



■フォーラムまでのスケジュール

	第8回部会（9月19日）	第9回部会（10月30日）	フォーラム（11月23日）
カレンダー	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラム提案内容と配布資料の検討 ・フォーラムで意見聴取内容の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラム配布資料の確認 ・フォーラム部会の意見聴取内容の確認 ・フォーラムの役割分担 	<ul style="list-style-type: none"> ・提案の提示と意見聴取

【取組2】町内会・自治会向けアンケートの実施

■提案内容

- ・町内会・自治会向けアンケートの結果を踏まえ、提案内容を決定する。

これまでの意見：①避難所と避難倉庫に関する提案

- ・身近な単位での防災マップの作成

- ・一時避難場所の設置 等

②生徒・学生との連携に関する提案

- ・3大学との連携の仕組みづくり

- ・中学生・高校生・大学生との連携の仕組みづくり 等

■提案内容と配布資料

- ・提案内容案。

- ・アンケートの集計結果を、一時避難場所、学生との連携に分けてグラフ等を交えて示す。

■フォーラムまでのスケジュール

	第8回部会（9月19日）	第9回部会（10月30日）	フォーラム（11月23日）
カレンダー	・事務局からアンケート実施経過報告	・アンケートの集計・分析 ・提案内容の検討	・アンケート集計・分析結果の報告と意見聴取

【取組3】防災マップの作成

■提案内容

- ・町内会・自治会向けアンケートの結果を踏まえ、提案内容を決定する。（【取組2】再掲）

これまでの意見：避難所と避難倉庫に関する提案

- ・身近な単位での防災マップの作成

- ・一時避難場所の設置 等

■配布資料

- ・防災マップをホワイトボードに掲示。

■記載事項

- ・避難所関連：避難所、一時避難場所、広域避難場所、避難区域

- ・災害時拠点：給水拠点、公共施設、公益施設（警察署、消防署、交番等）、病院・救護所

- ・危険箇所：急傾斜地

- ・その他：防災井戸、ガソリンスタンド、コンビニエンスストア

■フォーラムまでのスケジュール

	第8回部会（9月19日）	第9回部会（10月30日）	フォーラム（11月23日）
カレンダー	・マップづくり作業	・マップを踏まえた現状分析 ・提案内容の検討	・アンケート集計・分析結果の報告と意見聴取

■自然災害部会—区長への結果報告までの具体的な道筋を見通し、作業を進めよう！

	具体的な 取り組み	6月	7月	8月	9月	10月	11月	まとめ期間（11月24～3月中旬）			区長への結果報告 成果物のイメージ （実施主体を明示）
		部⑤ 6/21	部⑥ 7/29	部⑦ 8/22	部⑧ 9/19	部⑨ 10/30	フォーラム11/23（土）		全⑥ 12月中旬		
1	●多摩区版「備える。かわさき」の作成	・以下の通りチームを編成 安陪委員、吉田委員、原田委員、細埜委員、清宮委員、藤原委員	■パンフレットチーム ・マグネット方式「あなたの防災情報」（仮）の作成 ・町内会・自治会掲示板への避難所掲示 ・回覧版方式は引き続き検討	・マグネット方式「あなたの防災情報」（仮）の検討 ・町内会・自治会掲示板への避難所掲示の検討 ・回覧版方式の検討	・フォーラムでの提案内容・配布資料等を確認する		○「備えるか。かわさき」多摩区版の提案 ①マグネット方式 ②町内会掲示板・広報掲示板方式 ③回覧板方式				
3	●回覧板を活用した情報周知	・多摩区版「備える。かわさき」と一緒に検討する									
5	●避難所・備蓄倉庫に関する取組	・一時避難所の設置についてアンケートを実施する ・以下の通りチームを編成 荒井委員、岩崎委員、石橋委員、新田委員	■アンケートチーム ・町内会・自治会向けアンケートの実施⇒アンケート案作成 ・3大学関係者への趣旨・経緯の説明（岩崎委員）⇒大学との連携に関する論点（聞きたいこと）の整理⇒大学関係者ヒアリングの実施	・アンケート設問の検討	・アンケートの進捗状況を確認する ・アンケートの結果を踏まえた提案の方向を確認する ・フォーラムで配布資料を確認する		○町内会・自治会向けアンケートの集計・分析結果の報告 ○3 大学関係者への意見聴取が間に合えば結果報告 ⇒提案は？				
4	●区内在住大学生と地域との連携の仕組みづくり ①大学生・地元の意向把握	①-1 3 大学連携会議で説明の上アンケートを実施する ①-2 町内会・自治会向けアンケートを実施する									
	②学生向け防災パンフレットの作成・配付	②多摩区版「備える。かわさき」と一緒に検討する	・大学・地域の意見等を踏まえた上で検討								
	③中学生・高校生・大学生のHUG体験	③実施状況を把握し委員も参加する	・中学生・高校生・大学生 HOG 体験を提案		・フォーラムでの提案内容を確認する			○HUG 現物の展示			
2	●身近な単位での防災マップの作成	・全委員で多摩区全体の防災マップを作成する	・次回防災マップづくり作業	・マップ掲載項目の決定	・マップを作成する ・マップの結果を踏まえた提案の方向を確認する		○多摩区防災マップの掲示・避難所をめぐる論点の整理 ⇒提案は？				

自然災害部会 「いざという時に助け合える体制づくり」検討用シート

テーマ	現状と課題	解決の方向・解決策	具体的な取組	実施主体
情報の周知	<p>□発災前 【現状】 ・川崎市が防災啓発用小冊子「備える。かわさき」を作成。初版は町内会等を通じて全戸に配布した。 ・川崎市が「洪水ハザードマップ」を作成した。 ・川崎市のホームページで、各種防災情報を入手可能である。</p> <p>【課題】 ・「備える。かわさき」、「洪水ハザードマップ」等は、区民一人ひとりにとって役立つ具体的な情報になっていない。 ・誰に対して、どんな情報を伝えるかが重要だ。 ・ホームページで情報が入手できることが知られていない。 ・町内会を通じて配布される資料は、いざという時に手元にないことがある。また、見ていない人も多い。 ・液状化、上水道の漏水、がけ崩れ、集中豪雨・ゲリラ豪雨、洪水といった項目について、トータルに情報を見ることができない。 ・防災に関するさまざまな団体・組織があるが、それらがどのような活動をしているのかあまり知られていない。 ・防災に対する関心の低い人たちに、どうすれば関心を示すように情報を伝えることができるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既存の防災関連の資料を、より効果的な手段で家庭に配布する仕組みをつくる。 多様な情報をわかりやすくまとめる。 情報をマニュアル化したパンフレットを作成する。 いざという時に欲しい情報が得られるシステムを作る。 まず子どもたちに防災の必要性を伝え、子どもたちを通じて家庭や大人に情報を広める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①多摩区版「備える。かわさき」の作成 ・冷蔵庫へ貼付できるマグネット式 ・発災時、緊急時の留意点を記載 ②町内会・自治会広報誌への防災情報の掲載 ③身近な単位（自主防災組織、スクールゾーン等）での防災マップの作成 ・町内会・自治会備蓄品の記載 ・コンビニエンスストアの記載 ④回覧板を活用した情報周知 ・回覧板表紙に防災マップの貼付 ・地区別情報、詳細情報等を定期的に周知するホルダー 	
	<p>□発災後 ・発災時の災害情報が、市、警察署、消防署、各種団体、町内会にどのように伝わり、組織がいかに情報を一つにして連携を取るか。また、その中に市民をどう巻き込めるかが重要だ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の一斉メールを災害時にも活用し学校・学区ごとできめ細かい情報伝達を可能にする。 災害時の情報伝達手段として、区内でアマチュア無線をやっている人たちの協力を得る仕組みを作る。 		
生徒・学生との連携	<p>【現状】 ・川崎市と明治大学で協定を結び、地域産学連携研究センターに備蓄倉庫を設置、毛布等の災害物資を備蓄している。 ・明治大学の学生のうち、約3割は区内在住である。</p> <p>【課題】 ・大学生は4年経つと卒業してしまうため、継続性が乏しい。 ・大学生は災害時に交通が普及すると、帰省してしまう。 ・大学は、まず学生の安全確保が第一だ。3.11の際は、ボランティアの立上げに約1ヶ月を要した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大学と区が連携を図る中で、大学として協力が可能な内容を探る。3大学連携の中で検討を進める。 区内在住の学生を、住民として位置づける中で、学生による支援のあり方を検討する。 大学の寮に住む学生を、学校単位で避難所の担当を決め、災害時の避難支援をお願いする。 大学生に限らず、中学生、高校生等との協力のあり方、若い世代の支援のあり方を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①大学との連携に関する専門家の意見を聞くセミナーの開催 ②大学生対象防災セミナーの開催・学生向け防災パンフレットの作成・配付 ③大学連携に関する地元意向の把握 ④大学生の災害時の地域支援意向の把握 ⑤区内在住大学生との連携の仕組みづくり ⑥中学生・高校生・大学生のHUG体験 	

テーマ	現状と課題	解決の方向・解決策	具体的な取組	実施主体
避難所と備蓄倉庫	<p>【現状】</p> <p>①避難所運営の組織・体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織は町内会・自治会を中心に、稲田地区に55、生田地区に75組織されている。自主防災組織が中心になり、小・中学校区ごとに避難所運営会議を組織している。 ・宿泊型の避難訓練を実施している避難所運営会議がある。 <p>②避難所の位置・規模</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内には、21の避難所がある。区境の地域は隣接区の避難所が指定されている。 <p>③避難場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時避難場所は公園や空き地等に一時的に集合するもので、町内会等が任意に決める。 ・菅地区には緊急時の避難場所として指定されている農地がある。川崎市民防災農地登録制度では、個人が登録した農地を一時避場所として利用できるようにしている。 <p>④備蓄倉庫・備蓄物資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所などに備蓄倉庫が設置されている。確保できる収容面積に合わせて備蓄しており、近隣の避難所と融通し合うことになっている。 ・避難所に対して支援物資の輸送がなされ、避難所が配付所になる。 ・小学校の空きスペース等を利用して災害物資を備蓄している。平成27年度には、全ての避難所で備蓄倉庫が整備される予定だ。 ・町内会・自治会は、近隣の公園等に防災倉庫を設置し、独自に備蓄を行っているところもある。 <p>【課題】</p> <p>①避難所運営の組織・体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会に加入していない一人暮らしの若い世代や自治会の無いマンションは、自主防災組織に参加していないことが多い。 ・町内会・自治会の役員は高齢者が多く、いざという時に即戦力として活動することが難しい。また、メンバーが2年で変わってしまう組織もある。 ・一つの町内会・自治会が複数の避難所運営会議に関わっているため、そこに役員を出すのも大変だ。町内会・自治会に負荷がかかっている。 ・避難訓練等を積極的に実施し、良く機能している自主防災組織とそうでない自主防災組織の差がある。 ・避難所運営会議、防災ネットワーク会議は活発に活動しているところとそうでないところがある。 ・生田小学校と生田中学校は山を越えないといけない等、連会の難しい避難所がある。 ・避難所運営会議の存在・役割が区民に知られていない。 <p>②避難所の位置・規模</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の名称は掲示してあるが、地図や方向指示がないので、土地勘がない人は避難所の場所がわからない。 ・想定される避難者の人数が、収容人数を超える避難所がある。受け入れをどうするか課題だ。自宅が無事であれば避難しなくても良いことをあまり知られていない。 ・高台にある避難所があり、高齢者や足の不自由な人は避難が難しい。決められた避難所は最適な位置にあるのか。 ・避難所までの経路の検証が必要だ。 <p>③避難場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時避難場所を設定していない町内会・自治会がある。身近な一時避難場所を定め、そこから決められた避難所へ移動することが重要だ。 ・河川敷が広域避難場所に指定されているが、洪水などの場合の避難場所を確認する必要がある。 <p>④備蓄倉庫・備蓄物資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救援物資の供給に関しては、障がい等で避難所に取りに行けない人にどう届けるか、自宅で避難生活を送る人にどう情報を伝えるかが課題だ。 ・自助で3日分の食料や飲料は備蓄しないといけないといいことがわかっていない。 ・備蓄内容の把握、整理整頓がなされていない。 ・備蓄倉庫が上階に設置されている避難所では、防災備品を階下に運ぶのが大変だ。 ・リヤカーなど町内会・自治会が購入した防災備品を置く場所がないところもある。買いたくてもスペースがない町内会・自治会もある。公園等に倉庫を設置するには、面積等の制限がある。 	<p>①避難所運営の組織・体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の役割を知ってもらい、若い人たちの参加を促す。 ・コミュニティ部会と連携し、町内会・自治会への加入率を高めることで、自主防災組織への参加を促す。 ・自主防災組織の活動を活性化させる。 ・広報の方法や訓練の内容を工夫し、防災に対して関心の低い人たちの避難訓練への参加を促す中で、自主防災組織の存在を知ってもらう。 ・各避難所運営会議の取組の情報を集め、効果的な物は全区的に展開する。 <p>②避難所の位置・規模</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩区全体の地図に、避難所の位置、区割り等を記載する。また、各委員が把握している、高低差や危険箇所等の情報を記載する。 ・その結果を踏まえ、避難所の位置、規模、区割りなどが適正かどうかを判断し、提言に結びつけられるものがあれば提案する。 <p>③避難場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各町内会・自治会の一時避難場所の設置状況を把握するために、アンケートを実施する。 ・その結果を踏まえて、各町内会・自治会に一時避難場所の指定を義務付けるなど、提言できるものがあれば提案する。 <p>④備蓄倉庫・備蓄物資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備蓄品の現状を把握し、エリアごとに必要な備蓄品の内容・量等を提言する。 	<p>①避難所運営会議単位での避難訓練の開催</p> <p>②「あなたの避難所は〇〇学校です」というシールの作成・各戸へ配付</p> <p>③より身近な単位での「いざという時に助け合える体制」づくりの検討</p> <p>④避難所の場所と危険箇所マップの作成</p> <p>⑤町内会・自治会向け一時避難場所等アンケートの実施</p>	